令和８年 10 月 13 日

保護者の皆様

県立市ケ尾高等学校
校　長　　富澤　桂子

令和８年度第１回「生徒による授業評価」集計結果について

令和８年７月、本校生徒に対し「生徒による授業評価」を実施しましたので、結果を報告いたします。

１　授業評価の概要と結果

（１）評価項目

大項目	設問	小項目
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

（２）評価

（１）の項目について次の４段階で評価を行った。

４　かなり当てはまる　　３　ほぼ当てはまる

２　あまり当てはまらない　　１　ほとんど当てはまらない

（３）集計と処理

教科ごとに集計を行い、小項目の評価が肯定的な回答（評価「４　かなり当てはまる」又は「３　ほぼ当てはまる」）の割合を算出した。教科ごとに肯定的な回答の割合が**最も高い項目には塗りつぶし太字**、最も低い項目には下線で明示した。

（４）各教科の小項目の肯定的な回答の割合

設問	1	2	3	4	5	6	7
国語	87.0%	**90.9%**	88.4%	86.0%	89.9%	89.6%	88.2%
地歴・公民	88.1%	89.3%	86.2%	84.7%	86.3%	89.6%	**90.7%**
数学	86.6%	86.0%	91.0%	86.3%	82.4%	88.7%	**91.2%**
理科	88.7%	88.1%	87.3%	87.3%	85.1%	88.1%	**89.3%**
保体	93.2%	93.1%	**94.0%**	92.3%	90.4%	93.5%	92.2%
芸術	91.5%	91.7%	**94.8%**	90.7%	90.5%	93.9%	93.3%
外国語	**91.4%**	**91.4%**	88.8%	90.1%	87.0%	89.5%	91.2%
家庭	93.7%	**96.2%**	94.1%	88.9%	93.7%	94.1%	91.3%
情報	92.7%	94.4%	94.1%	94.4%	**95.8%**	95.5%	93.8%

※塗りつぶし太字は教科内で最も割合の高いもの、下線は教科内で最も割合の低いものを表します。

各教科の分析と改善の手立て

	分析	改善の手立て
国語	・設問２の評価が90.9％と最も高かった。これは、授業内の問いに対して多様な解答が生まれる場面が多く、生徒同士が考えや意見を交換しやすいことが要因として考えられる。また関連する設問５についても評価が高く、他者の考えに触れることで、自分の考えを見直したり深めたりする生徒が多かったことがうかがえる。 ・設問４の項目が最も低かった。これは、生徒が考えを深める活動を多く取り入れている一方で、「知識・技能」として何を身につけたのかを生徒自身が明確に認識できていない可能性がある。そのため、学習のねらいや身につけた力を振り返る機会を充実させる必要があると考えられる。	・学習活動の中での言語活動を通して、今後も他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする機会を確保する。 ・学習のねらいを提示し、身につけた力を振り返る機会を確保する。また、「知識・技能」に関するテストや演習活動を取り入れ、身につけた力を活用する機会を確保する。
地歴公民	・すべての設問について84～90％の生徒が肯定的な回答をしており、生徒の満足度はおおむね高いことがうかがえる。 ・設問７について、全項目の中で一番評価が高かった要因としては、前後のつながりを重要視する科目の特性がある中で、グループワークやまとめ活動を通して、学習内容を深化・発展させていくことができたと点が挙げられる。 ・前回設問４について一定の改善が見られたが、今回は約１％の下落ではあるが全設問のうち最低評価となった。ICTの活用などで知識・技能の定着は図れているものの、その知識をどのように活用するのかという部分に課題があると考える。	・これまでの取り組みを継続しながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着とそれらを活用する場面の充実を図り、効果的な学習活動を展開していく。また、小テストや振り返り、まとめの活動を通して生徒が学習内容を主体的に確認できるようにするほか、生徒が自ら課題を見出し解決を図る活動を単元のまとまりの中で計画的に取り入れ、生徒が理解できたという実感や達成感を得られる授業づくりを目指すことによって、改善傾向が見られたものの依然として最も肯定的な回答割合が低い設問４の肯定的な回答割合向上を図る。
数学	・設問３、７において、前学年や前章の知識と関連付けながら課題に向き合わせる授業展開や、課題解決に向けた思考場面を多く設定していることが、生徒の思考を深め、学習効果を高める要因となっていることが考えられる。 ・設問２、５において、生徒同士の考え方を知り、自らの考えを広げ深める機会が十分ではないと感じている生徒がいると捉えることができる。進度との兼ね合いから解説や提示が教員主導になりやすく、多様な解法を比較・吟味する時間を十分に取ることが難しい点が要因と考えられる。また、設問４についても同様に、個人での演習時間や教員による個別アプローチの確保が課題となっていると考えられる。	・既習内容との関連付けや課題解決の時間を継続して確保しながら、ICT等を有効活用して複数の解法や考え方を短時間で視覚的に共有・比較できる場面を設定し、他者の考えを通して自らの学びを深められるようにする。 ・授業時間内の解説をコンパクトにまとめ、個人で問題演習に向き合う時間や教員による個別のフィードバックの時間を生み出すことで、「できた・わかった」という学習効果の実感をさらに高めていけるようにする。
理科	全体の肯定率は約85%～89%と高く、特に授業のねらい・振り返り（設問1：肯定率88.7%）や既習事項との関連付け（設問7：肯定率89.3%）は定着している。 一方で昨年度同様、「他者の考えによる思考の深まり（設問5）」は否定的な評価が14.9%と最も高く、「知識を活用した課題解決（設問6）」も最高評価（評価4）が35.8%にとどまった。 理科の教科特性上、解法の習得が優先されやすく、観察実験等も正解が定まりやすいため、多様な考えを生んだり対話を深めたりしにくい側面がある。知識を定着させる学習にとどまらず、得た知識を新たな現象や応用課題に広げる授業展開がまだ不十分であることが、設問5・6の課題につながっていると捉えられる。	単に実験結果から法則を導き出して終わるのではなく、学んだ原理や法則を活用して「現実世界の課題解決」や「最新技術の仕組み」を考察する課題を定期的に設定する。一答に定まらない問いや応用課題を取り入れることで、生徒一人一人が多様な考えやアプローチを持つきっかけを作り出し、理科への興味・関心と考察力を高める。他者の考えに触れて自分の思考を深めさせるため、単なるグループでの答え合わせではなく、「自分と他者の解法・考察のプロセスの違いを比較する」「異なるアプローチの中から最適な解を議論してまとめる」といった対話の目標を設定する。ICTを活用して生徒同士の思考過程を可視化・共有しやすくすることで、対話を通じた学びの深まりを図る。
保健体育	・全ての項目において、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が90%以上となっており、授業に対する生徒の満足度は高いと考えられる。	項目3と項目４以外は「かなり当てはまる」より、「ほぼ当てはまる」の方が高くなっているので、授業の導入や振り返りを工夫し、生徒の主体的な学びをさらに促せるようにする。
芸術	・全ての項目において、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が高くなっており、授業に対する生徒の満足度は高いと考えられる。 ・特に設問３「単元の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。」設問６「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」の評価が高いことから、課題の解決方法を自ら考える力が向上されていると考えられる。 ・設問５「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」についての評価が低い点から、単元について生徒間での理解を深めることが難しかったと考えられる。	・実技科目としての特徴をいかし、引き続き生徒の興味・関心を高める授業構成、教材開発を考えていきたい。 ・相互鑑賞やグループワーク等の時間を増やし、生徒がお互いの知識や考えを深めることができるよう工夫していきたい。 ・授業毎の目標を提示し、具体的にどんなことができるようになったかを実感できる授業内容を研究し展開したい。 ・適切な場面に効果的な学習方法（考えることの大切さ）を取り入れ、今後もより良い授業展開となるよう努めていく。
外国語	・全ての項目において、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が高く、肯定的な意見が多かった。 ・特に、項目１「毎時間の授業や単元（内容のまとまり）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある」に対して肯定的な意見が多く、日々の授業での目標を明確にし、振り返りをするというサイクルができていると考えられる。 ・項目５「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」の項目に対する肯定的な評価の割合が、他の項目に比べると低かったので、自らの意見を深めたり、他者の考えを知る機会をもう少し増やす必要がある。	・引き続き、本時の目標を明確にした上で授業を行い、振り返りシート等を活用して、自らの学習を振り返る機会を作っていく。 ・長文の概要や文法を解説することに加え、グループワークやペアワークを定期的に行うことで、他の生徒の意見や考えを知る機会を設ける。また、他の生徒の意見を聞いたうえで、自身の意見をもう一度考える機会を作り、考えを深めることができるような工夫を行う。
家庭	・全ての項目において肯定的な評価の割合が高く、特に設問2「単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考え広げ深める機会」に関しては、約９割以上の生徒から「当てはまる」の評価を得られた。本校教科目標である「生活のなかから課題を見出し解決する能力を身に付ける」という点を意識して授業を行っており、毎時間のアクティビティを通して意見交換の場を設けており「他者の価値観や生き方を理解し自身の生き方や考え方の方向性を構築」していく授業を展開している成果が得られていると考えられる ・設問４「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができたか」については、１学期の単元が家族や自分の生き方を考える内容だったため成果がわかるにのは未来であることが影響していると思われる。	・今後も日常生活と関連させながら、課題を意識させる授業展開を継続して実施していく。２学期以降、住生活分野では１学期に学習した人生設計を元に、将来の理想の住居を考え簡単な平面設計図を製作する。衣生活では衣服の補修技術を習得したり、食生活や消費生活においてもより身近に感じられ、日常生活において課題意識を持ち解決できる力を身につけられるような授業内容を研究し展開していく。
情報	・すべての項目において、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が９割を超えており、授業に対する生徒の満足度は良好であると考えられる。特に設問５・６については95％を超える生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答しており、他者の考えを知ることにより自分の考えを広げたりまとめたりし、問題解決へとつながる力が向上したものと考えられる。 ・設問１・２については比較的数値が低く、各授業時間における導入やまとめの時間がやや不足していたものと考えられる。	・すべての項目において、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」のうち「ほぼ当てはまる」が半数を超えており、これらの生徒の満足度をさらに上げるよう、教材の工夫や授業の構成などを研究していくことがこれまで以上に必要であると考えられる。